



# 上毛町未来予想図 -KOGE × LIVE THE LIFE! -

## 1. 趣旨「夢が持てるまち」「人生を楽しみつくす循環と共生のまち」



上毛町の未来ってイメージできますか？

遠い未来はイメージしづらいかもしれません

でも暮らすまちが楽しくて、毎日が笑顔から始まるほうがいいに決まっています！

上毛流バックキャスティング 4001

理想の未来を創るのは、そこに住む人の熱意

ONE KOGE

さあ、みんなで始めましょう！

【説明】

○15年後の未来を見据え、「上毛モデル」の構築を目指して、上毛町では「4001プロジェクト」という旗印のもと、未来予想図を作成しました。

○2040年までに、人口1万人の実現と、住民の所得向上を目標としています。この未来予想図は、バックキャスティングの手法に基づく「未来へのメッセージ」であり、ストーリーテリング（物語による伝達）が重要な要素です。ストーリーテリングとは、単に情報を伝えるのではなく、物語や体験談を通して、聞き手の共感を呼び、強い印象を残す方法です。

○例えば、「山の手入れを行うことで災害を予防し、伐採された間伐材が町の特産品や建築に活用される」など、ひとつの取組が「一石二鳥」にも「三鳥」にもなるような「循環」や「連携」を意識し、描いています。

○また、様々なステークホルダー（住民・企業・行政など）が「共生」する町の姿を物語として可視化することで、次の世代へと受け継がれていく未来像を表現しました。



## 2. 基本コンセプト「3つのCHISAN」

上毛町が描く未来の基本コンセプトは、「3つのCHISAN（治山・地産・池贄）」です。この考え方をもとに、「食」と「住」と言えばまず上毛町の定住・交流ゾーンが思い浮かぶような「進化し続ける町」というイメージ戦略を展開していきます。

特に、住宅政策を「1丁目1番地」の重点施策として位置づけ、住まい・暮らしを起点に、教育・仕事・福祉などあらゆる分野を横断的に結び付け、安心・安全で効率的なまちづくりのモデルを目指します。

具体的には、荒廃した森林を整備して宝の山へと再生させ、上毛町の特産である「京築ヒノキ」をはじめとする農林産物を、建築などの分野で有効に活用します。これにより、地域経済の活性化も図ります。また、町内に点在するため池の特性を活かし、「池を讃える池贄」の視点から、池の保全と観光資源としての活用を両立させ、上毛町ならではの魅力を発信していきます。

## 3. 5つの柱と8つの要素

○上毛町が描く未来予想図の根幹には、「2040年に向けて人口と所得を増やす」という明確な目標があります。その発端には、現在深刻化している少子化の問題があります。実際に、全国レベルで学校の統廃合が議論され始めるなど、影響が現れ始めています。

○かつて、1966年（昭和41年）の「丙午（ひのえうま）」の年には、合計特殊出生率が1.57と過去最低となり、将来不安から「1.57ショック」と呼ばれました。2003年に少子化対策基本法が制定されたものの、状況は好転していません。

○現在、団塊の世代（269万人）から団塊ジュニア（209万人）、次の世代（68万人）へと人口は大きく減少しており、今後は1/10にまで縮小すると予測されています。このままでは、社会構造そのものが持続困難になるおそれがあります。

○少子化の大きな原因の一つとされる「未婚・晩婚・晩産化」の背景には、経済的不安があるとされます。そこで、上毛町では、地域社会全体の資金不足を補い、少子化の流れに抗い挑む町づくりを進めるため、「5つの柱」と「8つの要素」を基本構成としています。

### ■5つの柱（未来を支える基盤）

- ①ふるさと納税などを活用した「稼ぐ仕組み」の構築（財源確保）
- ②適疎の実現（東京では得られない、ゆとりと自然に満ちた空間。公民連携で美しい街並みへ）
- ③スマートシティの推進（先端技術による暮らしの質向上、快適性と効率の両立）
- ④3つのCHISAN（治山・地産・池贄）の展開（地域資源の連携と活用）
- ⑤「上毛学」のすすめ（教育によって人間力と創造性、問題解決力を育む）

## ■ 8つの要素（町のアイデンティティ）

- ①グルメ（地域の魅力を「食」で発信する）
- ②合理性（一石三鳥の視点で意味ある政策を）
- ③笑顔（心の豊かさ）
- ④情熱（自分ごととして意欲的に関わる力）
- ⑤足るを知る者は富む（身の丈を知り、質素ながらも満ち足りた暮らし）

※「身の丈を知り分相応の生活をする」「起きて半畳、寝て一畳、天下とっても二合半」より。

- ⑥純粹（まっすぐな思いと姿勢）
- ⑦遊び上手（オンとオフの切り替えができる柔軟さ）
- ⑧漢気（おとこぎ）（決断と責任を持って取り組む姿勢）

## 4. 定住・交流ゾーン

### 定住ゾーン（上毛暮らしのモデル）

○若者に選ばれ、世代を超えて暮らし続けたい魅力あるまちを実現します。

○ここで描く「暮らしのシンボルゾーン」は、結婚・子育て・高齢期と、人生のあらゆるライフステージにおいて、安心・安全・快適に暮らせる環境を整えたエリアです。

○象徴となるシンボルロードには、統一感ある美しい街並みが形成され、その周囲には以下の機能がバランスよく配置されます。

- ・子どもから大人までを育てる「突き抜けた教育（インターナショナルスクールや専門学校等）」
- ・地域住民の健康を支える「医療・福祉」
- ・心豊かな暮らしを彩る「カフェ・趣味趣向の教室・商業施設など」

これらが連携することで、まち全体に循環と共生の仕組みが根つき、明るい未来を連想させるような、魅力ある空間が創出されます。また、以下の要素も重要な柱となります。

- ・地元産品を活かした地産地消の生活スタイル
- ・人生の節目に応じた柔軟な住み替えモデル
- ・多世代・多国籍が自然に交わるコミュニティ形成



## ■シンボルロード沿いの統一した街並みデザインと住まいの循環

- 地産地消をコンセプトに、統一された空間デザインが形成され魅力となっています（建築への木材活用、ベンチ、レモン並木、地元産品チャレンジショップなど）。
- コンパクトハウス、戸建て賃貸、分譲地が整備され、ライフステージに応じた住まいの循環型モデルにより選択可能となっています（単身=コンパクト、子育て世代=賃貸・分譲等、高齢世代=コンパクト）。
- シンボルロードには広い歩道と自転車専用道が整備され、自動運転バスも運行。移動の快適さ・安全性が確保されています。
- 今回、イラストには描かれていない商業施設も、今後さらに充実し、利便性が向上します。

## ■突き抜けた質の高い教育（選択肢の多い教育環境）

- インターナショナルスクールがあり、チュラ小との交流と併せて次代を担う国際人を育成しています。
- 個々（発達障がいや不登校などでも）の得意を伸ばし、活かせる専門学校があります（職業人教育、地域の職人技を含む）。
- 誰でも学び、成長できる質の高い教育を町全体で支えています。

## ■利便性を追求した複合施設とタワー型住宅

- インターナショナルスクールの誘致とセットで誘致された施設です。
- 下層部には、ニーズの高い機能を集約した複合施設があり、便利です（各種教室、カフェ商業等）。
- 官民連携で進められ、民間ノウハウ等による子育てカフェなど、快適な居場所があります。
- 将来的には、医療機関を集約（内科、歯科、小児科、産婦人科など）したり、老朽化により修繕対応が増加している役場庁舎のDXスリム化も視野に集約を検討したり、様々な可能性のある施設です。

## ■げんきの杜等に子育て支援施設（屋内施設で安心安全子育て）

- 気候に左右されず安全に遊べる環境は、子育て世代に高いニーズがあり、安心して子どもが遊べる屋内遊具施設（ネット遊具、大型遊具、テーマパーク等）が整備されています。
- 子どもたちの学びや遊びの場を提供。保護者同士がつながる交流の場としても機能します。
- 産休や育休に対するメンタルケア、サポートができる体制も整っています。

## ■多世代交流促進と地域コミュニティの醸成

- ループアリーナとげんきの杜（福祉の拠点）が連携し、世代を超えた交流が進んでいます。
- 生涯いきいき現役社会に向けて、フレイル予防の拠点としても役立っています。
- 多世代参加型のイベントが定期的実施されています（図書館、福祉、文化、運動など）。

## 交流ゾーン（大池公園周辺）

- 大池公園周辺は、上毛町の「玄関口」として、町内外の人々が集い、賑わいが生まれるエリアです。
  - 将来的に、東九州新幹線の駅が開通すれば、飲食店や宿泊施設の増加が見込まれ、交流の中心としてさらに活性化が進むことが期待されています。
  - すでに、温泉館をはじめとする宿泊・飲食施設が充実し、ゾーン全体の一体的な発展が図られています。今後は、ゾーンにふさわしいネーミング（例：「チサンビレッジ」）の導入など、さらなる魅力づくりとイメージ戦略を展開し、上毛町でしか体験できない「魅力ある食とドラスティックな体験ゾーン」として進化を目指します。
  - また、サテライトオフィスは、新しいビジネスや交流を生み出す拠点として機能しており、都市圏（例：東京）からの人材とも柔軟につながる仕組みが整っています。これにより、二拠点生活や二地域居住が増加し、豊かな自然を享受しながら仕事ができる、魅力的で働きやすい環境が実現しています。
- ※本ゾーンにおいても、「人口1万人の達成と所得の向上」という目標に貢献するため、大規模企業の誘致、特産品開発工場、新しいビジネス、テレワーク、創業、林業、農業などが必要です。



### ■3つのCHISAN「池讚」で池の魅力を引き出す

- 上毛町の豊かなため池資源を活かし、「池で遊ぶ」「池に集う」体験型観光ゾーンを創出しています。
- サップやカヌーなど水上アクティビティ、ヨガなどのウェルネス体験が人気を集め、自然と共に過ごす価値が高まっています。
- 宿泊施設も多様化しており、ホテルのほか、ログハウス、ツリーハウス、キャンプ場など、幅広いニーズに対応した「滞在型観光」が実現しています。

### ■3つのCHISAN「地産」は地元農産物ブラッシュアップでグルメ首都へ

- 上毛町の地元農産物や特産品が進化し、食の魅力を最大限に発信しています。
- 大池公園がドラスティックなグルメ首都になり、パン屋やカフェ、スイーツ、雑貨、家具店などが並び、女子が集うお洒落な空間が自然に形成されています。
- 特産品開発（農林産物やジビエなど）において、加工から販売までできる6次産業化を通じた地域活性化の仕組みが整っています。
- 新たなヒット商品が生まれ、農家等所得の向上、町のブランド化、ふるさと納税の活性化、企業の誘致による雇用の増大、定住人口の増加の流れがつかわれています。
- かぼちゃ、レモン、柿等の既存特産品に加え、新たな特産品の開発を行い、所得増を目指しています。
- また、生産者の顔が見える安心安全な農産物、高付加価値のあるブランド化された特産品を観光メニューとして活用したり、ふるさと納税の返礼品に取り上げたりするなど、好循環につながっています。
- 特徴ある商品の開発とともに、町の魅力も情報発信することで、一石三鳥、四鳥につながっています。
- 食品 OEM 企業の誘致により、ヒット商品の開発が進み、雇用の裾野が広がることで地域経済が底上げされています。
- 特産品製造の企業誘致、地場産品の開発や製造に係る設備投資の補助金にクラウドファンディング型のふるさと納税（ふるさと納税3.0）を活用するなど、自治体としての「稼ぐ力」を高めています。
- 大学や研究機関等との連携により、事業者と共同で新技術や製品開発を進められています。

### ■3つのCHISAN「治山」で美しい景観を保全し建築への活用促進

- 町の山林資源を戦略的に整備し、自然と共生する美しいまちづくりを進めています。
- 山林の整備を効率的に行うことで、保水力の向上、防災、生態系の保護、木材の確保、良好な景観の好循環につながっています。切り出された京築ヒノキは、トラックで町内の製材所に運搬され、シンボルロード沿いの住宅や公共施設の建築に活かされています。

